

---

# **新説 『新世紀 エヴァンゲリオン』**

コウ 9 9

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

新説『新世紀 エヴァンゲリオン』

### 【Zコード】

Z8701C

### 【作者名】

コウ99

### 【あらすじ】

自分を他人に望ませたいなら、明日の、人類の未来を救うしかない…………そう思いたつたシンジ（喧嘩歴0、度胸も0の超がつくほど軟弱中学2年生）はレイ（まだよくわからない同じ年の女子、スレンダーの美人）と第1使徒と戦いにのぞみます。

## 第2話　いわくぬこのへ? (前編)

やつと書けたあ~~、それでは第2話いわくぬこ~~~~~。

## 第2話　「わくないの？？」

僕の目の前には不気味な顔と胴体が繋がった怪物、いや『使徒』右横を見ると『エヴァ 零号機』が稼働停止している。

そして今僕が乗っているのは、『エヴァ 初号機』

日曜日朝7時から放送されている、ヒーロー戦隊ものみたいな状況が僕の身に降り掛かるとは……

今まで、人から頼られ、期待されるようなことは、……それが今、何万人いや、何億人の頼り、期待を背負っている。

しかも、絶対勝たなければならぬ……人のために、未来のために、そして何より綾波のために勝ちたい。

僕が、リツコさんに操縦の説明、其の他諸々を聞いていると、ガタガタとだんだん音が近づいてくる。見ると、

メッサカワエエ女の子キタ――――――――――――――――

――――――しかも包帯眼帯付き――――ウホホホ――――――――

なーてことは外に出すような愚はおかしい。てかなりの重傷みたいで、心配だ。

「大丈夫なの！？レイ、そんな体じゃ無理よ、出撃なんて！――」

はいっ！？出撃！？見た目、僕と年の変わらないスレンダーで、中々キヤワユイ女の子が！？

リツ『セセセ』と、レイつて女の子が口論していると、父さん、いや司令がレイの肩を掴んで

「シンジ一人では何かと心配だ。しかし、今回はダメだ！」と真剣な表情をする父さん、いや司令。

父さん、いや司令にまでダメ押しをくらつてもレイは引き下がらなかつた……さつきより強い語調で、瞳でうつたえた、

「私は、『使徒』と戦つためにここに呼ばれ、ここで生み出された。私には戦う義務がある。戦ふことでしか生きる意義、意味が見いだせない私から何人たりとも戦いを奪わせない……」

正直、レイの言葉に、姿に感動した。自分の気持ちを言葉に変え、臆することなく自分を曝け出すレイに……感動した！！そして、内でうなづく自分に驚いた……自分がよく分からぬ……

結局、最後はレイは後方で支援して、絶対に前線で戦わないってことで落ち着いた。

『エヴァ』専用の戦闘服に着替えさせられ、『エヴァ』の準備完了まで一人で待つことになった。

落ち着かなくて、つむづむする僕には気がせず、レイは、『二一チ』を読んでいる……

こんなときに読む本じゃないでしょお～～

そんな、僕の視線に気付きレイは

「何かよう？」とかなり冷たい……（泣）

「あつ、うつ……え~と、どうも初めまして、イカリシンジです。

「

我ながらスンゴイ情けない…いきなり

「初めまして」「って意味分かんないし、何だよ

」です。」つて……ホント自分が嫌になる（泣）

「…………」  
「…………、綾波レイです。」と冷静とこいつ、無機質な感じ。

会話が全くつづかん…… 焦つてると、綾波が話しかけてきた。

「イカリってことは、司令と関係が？」

意味を取り違えると危つい意味になるがそこは置いといて、

「僕は父さん、いや司令の子供なんだ。母さんは僕を生んでからすぐ死んだけど……」

「お母さんのことは聞いてないわ。」

会話続かねえ～、できねえ～

ふと思つた疑問を口にした。

「綾波は怖くないの？？『使徒』と戦うのが怖くないの？？」「少しあいて、

「なら、あなたは怖くないの？？」

先に聞いたのは僕なのに……

「怖いよ、恐いよ……たまらいくらいこわいよ、不安だよ……」

「私は、こわくないわ！司令や赤木博士や葛城大尉、他のスタッ

フさんが頑張ってくれてるから……」「

迷いない口調がムカつく、迷いない態度がムカつく、迷いない綾波がムカつく

「何してくるか分からぬ相手なんだよ……それでも『こわくないの？』」

今の僕は綾波に『『こわい』と言わせたい気持ちで溢れてる。

「『こわくないわ。』とピシャリと即答。

そんな綾波にさうにボルテージが上がっていくのが分かる……

「命懸けだよ……死ぬかもしれないんだよ……これでも『『こわくないの？』』

綾波は、静かに、しかも激しく言った。

「じゃあ『こわがつたら何か変わるの？？』

後の言葉は言つまでもないという風に綾波は本に目を戻した。

確かに綾波が正しいと思う……、だけど、こんな状況で冷静なんだ……、まるで感情のない人間、いや機械みたいだ……

そして遂に、この時を迎えた。人類の未来が左右される時が……。

右後ろに綾波がライフルを持って射撃態勢にはいつてゐる。僕はといふとすること分かんないから力カシミみたいに『仁王立ち』。

作戦は、まず僕と使徒のワンオンワンで、僕がボゴボゴされてる間に綾波が銃で網発射し、使徒捕獲。その後使徒のコア（心臓らしきもの、エヴァにもあるらしい）を壊す……

この中々ナイスな作戦を考えたのは、意外にも……ミサトさん

だつた！

僕が少々やられたのはじょうがないらしい……（うまく丸めこまれた）

こぞ、作戦スタート……（地球存亡の危機って感じがしないのが、微妙だ。）

使徒さん、僕の五百メートル前で停止……メチャクチャ恐いよ～、てかどうやって戦えばいいんだよ～～～？？見たところボタン、操縦レバーなんかないしなあ～～

いろいろ嘆いてた時、綾波から着信があり、自動的にテレビ電話に切り替わる……

「イカリ君、落ち着いて……あなたの心の部分がエヴァの行動にモロに出てるわよ。」

確かにエヴァが地団駄踏んで、頭抱えてる……何気にかわいい……（お持ちかえり～～～）

これで少しエヴァのことが分かつた気がする。エヴァと僕の心、気持ち、イメージとつながっているということ。

僕が落ち着きを取り戻すと、使徒が再び接近してきた……

やつぱり使徒は僕にとってもなく不安を抱いたんでしょう……そりゃビビるわなあ～～

残り400メートル…300メートル、突如綾波から、

「危ない……」

はいつ…?って思つてると、いつのまにか吹き飛ばされてた…  
てか今日からビームが出たよ!な……

第2撃、チュードーン…またもやブツ飛ばされる。これじゃあ囮  
の意味もないよ……

今さらながら痛みがくる。左腕と右田あたりがギリギリ痛む…  
よく分からぬいけど、心も体もエヴァと繋がってるいや、シンク  
口している。

第三撃田は素早く起きて回避したのだが、衝撃波で前方に飛ばさ  
れる……

あれまあ~使徒さんの真ん前に来ちゃった……ヤベーよ、か  
なりヤベーよ~

使徒さんは僕いや、エヴァの頭を掴んでどんどん殴つてくれ~

ドス、バキ、ドカ、バシコン…!…ブツチン……

ラストのは僕の理性が壊れる音でした、要はキレたつてことです

イカリ君がキレたのでここから私、綾波視点でお楽しみください。

作戦通りイカリ君がボコボコにされたんでこの『対 使徒 捕  
獲銃』を発射しようとしたら……

突如イカリ君、使徒の腕を噛んでます！！

首を左右にブンブン振り回し、ついには使徒の左腕を食いつかげつ

ケヘヘヘヘヘ！

\* イカリ君サイコモード

アバタード

使徒は耐え切れずに、後に飛んで回避しヒームをしますか。

ヒム切り裂いたやつた

腕を軽く振つただけでビームを切り裂き、使徒のA・T・フイー  
ルドをも破壊しました……

そしてノーモーションで跳躍し右腕を振り上げ、はじめ〇一歩よろしく、右ストレートが突き刺さつたあ～～～！！！

ズツガア～～ン！！！！！！

もはやパンチの音じやあります

パンチで使徒を地面に吊りつけたり、マウントといじめられたん鉄拳を雨あられ降りそぞぎます。

さすがに使徒もなすすべなくボコボコにされてます……（この時ばかりは使徒に同情しました、エエ）

イカリ君の圧勝かに思えました……が、イカリ君が使徒にどざめをさそぐと右腕を振り上げとき、

僕は……いつたい何をしてるんだ……！？

使徒を組伏せ、自分は右腕を振り上げてる……

さっきまで、使徒にボコボコにやられてた僕が何故こんな有利な状況に？？喧嘩なんかしたことない僕が何故？？

シンジのその思考は一秒にも満たなかつた、しかしひんちの使徒には願つてもない大チャンス。

それを見逃さず使徒はビームを放ち、エヴァを吹き飛ばす。そして素早く、エヴァに飛び付き、エヴァの首を絞める！

シンジはこの時、シンクロ率が60%を超えていた、シンクロ率が高ければ高いほどパイロットの思い通りに動くが、しかし悪い面もある。高ければ高いほど、ダメージが大きい。

そしていとも簡単にシンジの意識はまたも墜ちてしまつた……

気が付くと、僕は知らない天井を見上げていた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8701c/>

新説 『新世紀 エヴァンゲリオン』

2010年10月10日01時37分発行